

所属・資格 国文学科・教授

申請者氏名 鈴木 功眞

研究課題		古辞書の記載情報の妥当性に就いて
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>日本の古辞書は手書きで編纂・継承されてきたものである。その中の記載情報の妥当性の認定は常に慎重に判断される必要があると思われた。</p> <p>本研究ではその認定方法に就いて考察し、古辞書が目指そうとした知の体系が何であったのか、その実態と妥当性に就いて記述を試みた。</p>
	研究の結果	<p>古辞書として具体的に『倭玉篇』諸本を採り挙げ、諸本の対照を行うことによって、転写時の誤字が非常に多い事が確認できた。</p> <p>誤字・誤情報の量は『倭玉篇』諸本という限定された範囲でいえば、版本よりも写本に多い事が明らかとなった。また、写本の中でも流布本である『第四類本』と呼ばれる一群のものに特に多いことが明らかとなった。</p> <p>このような差はなぜ生ずるのかと考えたときに、版本、つまり出版の場合は出版に携わる複数の人物による点検・内省が効くが、写本の場合は校合はあるにせよ、書写時に内省の効かなかったことを意味するものと結論づけた。</p>
	研究の考察・反省	<p>今回は、古辞書の代表として『倭玉篇』を採り挙げた。内省の効くか否かは資料性や資料構造の影響を大きく受けよう。今後は、他系統の古辞書や、他ジャンルの資料なども調査しながら、内省とは何かをより詳しく明らかにすることによって、言語に於ける内省による言語変化の実態も記述できるのではないかと考えるに至った。それは辞書に立ち戻るならば、近現代辞書での誤字という指摘に対する解答にもなりうる。辞書の誤字・誤情報は時に強く批判の対象にさらされる。辞書を研究する立場として、今後、辞書に誤情報が混入することの構造的な理由も記述していきたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究発表】 特になし</p> <p>【研究成果物】 論文（単著）「古辞書の誤字をめぐって—倭玉篇諸本調査より—」 沖森卓也編『歴史言語学の射程』（三省堂）所収、2018年11月25日、pp255-269</p> <p>【その他成果物】 通信教育部メディア授業「国語学概論」MA（前期）2019年3月末日納品（予定）</p>
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	